2020年度「第三の居場所づくり事業」完了報告書

事業名：長野県における「第三の居場所」の運営支援
団体名：公益財団法人　長野県みらい基金

【長野県みらい基金伴走支援】

■特定非営利活動法人 にっこりひろば

【現地支援チーム会議　１回】
日　時 ： 7月29日（水）
場　所 ： 三本柳地区センター（にっこりひろばから徒歩1分）
人　数 ： 23人
内　容 ： ①2019年度事業報告　　②今年度活動について・課題共有
③長野市のトワイライトステイ事業について
④参加者自己紹介も兼ねて意見交換
・もっと広域に情報を周知させ、学区外ではあっても行き場のない子どもたちに居場所として利用してもらえるようにしたい。
・昨年度末に地域で第三の居場所の概要説明等を行ったが、地区の役員が4月で大きく変わったため、再度の説明を依頼したい。
・長野市教育委員会より岡宮代表に、地域内の小学校で行われている支援が必要な子どもたちのためのケース検討会へのオブザーバー参加の促しあり。
教育関係者への徹底した周知の必要性

【現地支援チーム会議　２回】
日　時 ： 2022年２月８日（月）
場　所 ： ZOOMによるオンライン会又はにっこりひろば
人　数 ： 20人
内　容 ：①研修　長野市こども未来部子育て支援課　祢津　満氏
「トワイライトステイ事業について」
②2020年度進捗報告
③2021年度事業計画
・惣菜部門の本格稼働
・夕方以降利用者をトワイライトステイへの誘引
・サポーター、アルバイト等の人件費をボランタリーベースへ少しでも移行していく
・公的、民間補助金、助成金を検討する
・マンスリーサポートについて

【地域資源拡充】
長野市・長野保健医療大学・三本柳小学校・川中島地区・更北地区・JAグリーン長野・
ITサポート銀のかささぎ・市社会福祉協議会
北信教育事務所

・長野市役所　こども未来部こども政策課　訪問面談
・助成終了後の自立支援への働きかけ
・長野市の助成、補助金等の相談
・トワイライトステイ運用について
・国の見守り助成の持ちかけ

【成果】
・長野市と連携しトワイライトステイ事業開始（平日金曜日・休日の利用が多いので受入側も調整中）
・地域との連携強化（区長会に説明・民生委員とフードドライブ実施）
・学校と連携し、週に１度学校に行かない子がにっこりひろばを利用した際、出席扱いとした

【課題共有】
・夜の居場所は１回300円で、トワイライトの世帯負担と同等か安くなることと、世帯収入がわかってしまうため、利用に結びつきにくい。
・プラザ、センターと棲み分けするため、児童は１度家に帰宅してからにっこりひろばを利用してもらっている。
・放課後の居場所は人数制限により近場の利用者が主
・新規ボランティアの受入を停止している。

■特定非営利活動法人 まちの縁側なから

【現地支援チーム会議　１回】
日　時：8月7日(金)　9時30分～10時30分
場　所：エコールみよた 大会議室
人　数：19人
内　容：① 2019年度事業報告　② 今年度活動について・課題共有
③ 意見交換
・コロナの関係で、今までのように誰でも来ていいというこども食堂のあり方は心配な面が多い。スタッフからは心配の声も出ている。弁当配布など別の方法も模索中。
・本当に居場所が必要な子どもたちには予約制を取り入れるなど、住み分けが必要。

【現地支援チーム会議　２回】
日　時：2022年２月9日(火)
場　所：ZOOMによるオンライン会又はにっこりひろば
人　数：23人
内　容：①研修　御代田町教育委員会　岡本直人氏「町の心理師としての役割と仕事」
②2020年度進捗報告
③2021年度事業計画
・町ふるさと納税による運営費捻出
・自然食品系レストラン、通信販売との連携による収入へのトライアル
・リユース事業の一部収益化トライアル

【その他】
　勉強会実施：　講演　「こどもからのSOSを地域で受けとめる」
　　講師　宮嵜貞子（北信教育事務所スーパーバイザー、精神保健福祉士）

【地域資源拡充】
御代田町・教育委員会・町社会福祉協議会・佐久地域こども応援プラットフォーム・東信教育事務所
ホットライン信州・上田高校ボランティア班・佐久長聖高校・教員志望大学生
・松川町役場　福祉課　教育委員会訪問面談（2回？）
助成終了後の自立支援への働きかけ
　町の助成、補助金等の相談
　町のふるさと寄付のなからへの助成
　国の見守り助成の持ちかけ

【成果】
・御代田町に公認心理師が配属され、町・学校・第三の居場所の連携が生まれ情報交換ができた
・佐久長聖高校や教員志望の大学生が活動に参加

【課題共有】
・収益事業の継続性の確保（学習塾）
・教室単位の学習支援の人材確保
・次年度から始まる畑作業指導する人材確保
・相談件数の増加に対応するための支援員増員

■特定非営利活動法人末広プロジェクト

【現地支援チーム　1回】
日　時：7月31日（金）13：30～15：00
場　所：諏訪市役所
人　数　：　19人
内　容：①2010年度事業報告　②今年度活動状況報告課題共有
　③活動紹介　すわ☆あゆみステーション　所長　唐木田京子
・諏訪市のすわ☆あゆみステーションでは生きづらさを抱えている子どもと支援団体のマッチング事業を行っている中で、末広を紹介することができとても助かっている。現在コロナウイルス感染防止のため子ども食堂のように不特定多数の人が来ないことにより、その子にとっては安心できる居場所として預かってもらい親子で喜んでいる。他にもマッチングができそう。
　④意見交換
・コロナウイルスの影響で休校になり子どもたちは不安を抱えている。昼間親がいない、外に出られない、友達に会えない＝相談できる環境がない。そんな状況からチャイルドラインの相談件数が増えている。
・南信教育事務所で実施する指導者研修会でこの取組を広報できる。
・緊急的な子どもの居場所としてゆめひろで預かってもらえれば、里親制度事業団体への周知ができる。
・社協では生活福祉資金の支援窓口となっているが、必要な人に発信できていない。ゆめひろの情報も困っている人に届くよう一緒に情報発信に努めいた。
・支援を必要な子どものために情報が届くためにそれぞれの立場から情報発信をする。

【その他】

・2019年度日本財団報告書に基づき振り返り
・困っていることなどヒアリング
・コロナウイルス対策の確認
・あゆみ☆ステーションから紹介いただいた女子１名、学習支援継続中
・「ゆめひろ夏期補修」参加費を無料にし、教育委員会から各学校へ配布を依頼した。
・情報提供→長野市のトアイライト事業・松本市不登校児童生徒を支援する民間施設についてのガイドライン新聞記事・厚生省の「子どもの見守り強化アクションプラン」の実施

【現地支援チーム会議　２回】

日　時 ： 2022年２月３日（水）13：30～15：00
場　所 ： ZOOMによるオンライン会又はゆめひろ
人　数 ： 23人
内　容 ：①研修　諏訪市立高島小学校　校長　矢島　作朗氏　「４月からの統合新小学校」について
特定非営利活動法人ちゃいるどふっど　代表理事　半田　裕氏
「地域のプレーパーク運営、末広プロジェクトとの関わり」について
②2020年度進捗報告
③2021年度事業計画
・小学校区再編成による子どもの立ち寄りを増やす（高島小学校長）
・学習支援と遊び（プレーパーク）、ランチを組み合わせた休日プログラムによる子ども家庭への普及
・ランチ提供のトライアル
・マンスリーサポート推進

【地域資源拡充】

諏訪市・高島小学校・シニア大学・茅野高校・諏訪実業高校・市社会福祉協議会・民生児童委員協議会
末広区長・NPO法人ちゃいるどふっど・チャイルドライン推進協議会
・諏訪市役所　こども課　訪問面談
・助成終了後の自立支援への働きかけ
・諏訪市の助成、補助金等の相談
・国の見守り助成の持ちかけ

【成果】

・諏訪市「すわ☆あゆみステーション」と連携し市の事業を受託
・小学校との連携強化（学校に届け出をした児童は放課後直接ゆめひろに行ける仕組みを検討中）
・学習支援を通して高校生・大学生が小学生に関わる機会となっている

【課題共有】

・新型コロナの影響
・R2.3より食事提供が再開できない
・相談支援、子育てサロン未実施
・利用者数の伸び悩み
・駐車場がない
・活動の理解者・協力者を増やす

■ＮＰＯ法人Ｈｕｇ

【現地支援チーム　１回】
日　時：8月6日（木）13：30～15：00
場　所：上片桐改善センター大会議室
人　数　：　27人
内　容：①2010年度事業報告　②今年度活動状況報告課題共有
②事例紹介　・松川高等学校ボランティア顧問　菅沼　節子氏
「子どもたちを取り巻く環境」
・前まいさぽ所長　市瀬　邦子氏
「今までの経験から気づいた地域や子どもの課題」
③意見交換
・社協と協力してフードドライブを実施。地域との連携をさらに深めていく。
・自分たちの組織で何ができるか再度持ち帰り話し合いたい。

【現地支援チーム会議　２回】
日　時　：　2022年２月４日（木）10:30～12:00
場　所　：　ZOOMによるオンライン会又はHug
人　数　：　20人
内　容　：①研修　南信教育事務所飯田事務所　伊藤公敏氏
「不登校児童生徒の現状と多様な学びの場の充実について」
②2020年度進捗報告
③2021年度事業計画
・社協等のランチ（弁当）需要の拡大
・農繁期援農就労へのママさん支援による収益
・中間教室の補助金獲得（学習、生活支援助成　厚労省）等
・マンスリーサポート推進
・高校生のボランティアの存在がとてもすばらしい。継続

【その他会議】
・2019年度日本財団報告書に基づき振り返り
・３月休校になったので松川町教育委員会に支援を必要とする子どもたちの受け入れ場所として、Hugを提供できることを伝えると教育委員会から全家庭へメールを送ってもらえた。緊急時だからこそ教育委員会と連携をとることができた。
・カフェ運営ができない時期は、カフェチームはマスクを作成。
・５月（様子をみて）フードドライブを実施。子ども食堂でカフェチーム作成のマスク販売や、総菜、フードパントリーを実施。社会福祉協議会と連携強化。
・中間教室について、長野県教育委員会事務局で中間教室についてヒアリングし状況を伝える。
・情報提供→　長野市のトアイライト事業・松本市不登校児童生徒を支援する民間施設についてのガイドライン新聞記事・厚生省の「子どもの見守り強化アクションプラン」の実施

【地域資源拡充】
松川町・松川高校ボランティア部・竹村工業・まいさぽ飯田・町社会福祉協議会・民生児童委員協議会
上片桐区・上片桐区諏訪形自治会・下伊那こども家庭支援センターこっこ
・松川町役場　福祉課　教育委員会　訪問面談・助成終了後の自立支援への働きかけ
・町の中間教室（フリースクール）への助成、補助金等の相談
・国の見守り助成の持ちかけ

【成果】
・教員 OB の学習サポーターが増え、南信教育事務所との連携も深まった。
・学校との連携強化（学校以外の居場所として認めてもらい学校のテストを受けられるケースもあった）
・行政の福祉課と連携し若者の居場所支援として 18 歳以上の相談体制が構築できた

【課題共有】
・中間教室としての運営の確立
・小規模なフリースクールの運営（利用料金など検討中）
・新型コロナの影響
・ママカフェ R2.11～未開催（リモート利用や少人数で開催）カフェの収益が減少。テイクアウトやお弁当販売を拡大したい。
・こどもカフェはお弁当配布に切り替え、小規模実施中。

■事例（エピソード）報告
・コロナ禍で学校が再開してもクラス替えがあったことで落ち着かなかった子が、にっこりひろばでいつもの時間を過ごすことで気持ちをリセットできているようだと保護者から聞いた。にっこりひろばという場所があるから学校にも行けているとのこと。
・夜の居場所を利用する子が固定し始めてきたが、その中には親が仕事で遅く兄弟で留守をしている家庭もいる。にっこりひろばができる前はいつもあちこちをふらふらしていたが、ここに通うようになってからはそれが見られなくなったと地域の方から話が聞こえてきた。
・中学３年女子
小学校の時から多くのいじめを受けてきたとのことで、１年半前の利用時は他の子ども達と交わうことが出来ず、常に同行の祖母から離れられない。ボランティアの高校生達と打ち解けられることが出来る様になり、その後併設の学習塾の子ども達２人と仲良くなる。次第に明るく喋るようになったが、今年春ごろよりハイテンションが続き、精神科受診。６月より相談支援開始。自分の中に７人の友達（３歳から２４歳までの男女）がいて、自分を助けてくれるとのこと。８月時点で３歳の甘えん坊さん以外はほぼ静かになり、彼らが代役してくれていた怒りなどの感情は自分で出せるようになったとのこと。こども食堂参加時は、時には９時過ぎまで勉強していき、合間に学校での出来事を中心にいろいろ話してくれる。
・母親
　コロナ禍のため収入の減った母子家庭の母親から「ここがあって助かりました。毎日子どもにお腹いっぱい食べさせることが出来ました。」収入増の必要が生じた母子から「夕方から子ども（小６と中１の女子）を預かってもらえたら、仕事時間を増やすことが出来る。」との申し出があり快諾。学習支援も含めて週２日～4 日利用してもらっている。また、母親に賄いにも入ってもらうことが出来た。
・諏訪市のあゆみステーション（子ども総合支援拠点）との連携のなかで、新型コロナウイルスによる閉館中に、小学生ひとり、中学生ひとりの紹介を受けた。面談をし、お試し学習支援をするなかで、その後継続的に、「まなび舎」に参加するようになった。その後、新たに１名の小学生の学習支援の依頼を受ける。本人が個別指導を希望していることから、毎週金曜日夕方（18:00～19:00）に個別指導を行なうこととし、９月よりスタートした。
・諏訪市あゆみステーションとの連携のなかで、あゆみステーション職員が不登校生徒との面談・学習支援の場所としてゆめひろを利用してくれることが増えた。現在週１～２回のペースで午前（10:00～12:00）もしくは午後（14:00～16:00）に利用してくれている。現在中学生１名、高校生１名が不定期ではあるが、コンスタントに利用している。新型コロナウイルスの終息が見えないなか、来館する子どもの数を増やすことそのものに不安がつきまとうことから、あゆみステーションとの連携をさらに深め、本当に支援の必要な子どもを・家庭を対象とした学習支援、食事支援、相談支援を展開して行きたいと考えている。

・３年前から利用をしている１０代の女の子の例
不登校と高校中退を経験し、居場所を求めていた時に、ボランティアとしてこども食堂の調理やカフェの接客

での利用を開始。最初は会話をすることや、臨機応変に動くことが難しかったが、多くの利用者やボランティアスタッフとの関わりの中で、メニューの提案をしたり子ども達と遊んだり、自分から気を利かせて動いたりすることができるようになった。先日二十歳になったが、「Hug のおかげで友達もでき、変わることができた。やりたいことをさせてくれた親にも感謝している」と泣きながら話してくれ、精神的な成長がみられた。

・宿題サポートを利用している小学５年生の女の子の例

２年前から利用している。クラス替えなどの環境変化に敏感で、今年度か　らクラスが変わり、精神的に不安定になり学校に足が向きにくくなった。保護者も家庭での接し方に困っているとの事。本人と保護者との三者面談を実施した際、本　人が不安な気持ちをすべて吐き出した。保護者を通して学校と連携を取り、本人に合った宿題のやり方や、心の休ませ方などの連携を取っている。また、担当スタッフ３名と本人で交換ノートのやり取りをし、心に寄り添っている。最近では元気に通えるようになり、保護者も喜んでいる。

■全体支援チーム会議

日　時 ： 2022 年２月４日（木）10:30～12:00
場　所 ：オンライン会
人　数 ： 26 人（県関係部局 14 人　運営団体４人　日本財団２人　事務局　県４人　みらい基金２人）
内　容 ：長野県内「第三の居場所」の取組の進捗状況及び課題について
意見交換

■その他　情報提供など

・4 月 17 日コロナウイルス感染防止注意喚起
・5 月 15 日（金）コロナウイルス感染防止対策により困っていることなどヒアリング
・5 月 18 日（月）感染症対策「こども食堂・フードパントリー開設」ハンドブック送付
・5 月手指消毒液調達
・5 月 19 日コロナウイルス感染防止徹底依頼
・7 月 30 日長野県全域の感染警戒レベル引き上げに伴う感染防止徹底依頼
・7 月タブレット、サッカーボール届ける
・10 月各拠点訪問
・10 月～マンスリーサポートについて、金融機関と打ち合わせ
・12 月長野市、御代田町、諏訪市、松川町へ各拠点の進捗状況報告・マンスリーサポートについて相談
・12 月各拠点へ次年度事業・予算の打ち合わせ
・11 月 18 日、12 月 17 日　運営セミナー研修
・2 月 25 日ファンドレイジング基盤強化研修
・タブレット学習ソフト確認
・3 月 23 日～29 日事業報告・会計処理確認・次年度打ち合わせ
・災害対策物品支援(発電機・投光器・ハンディメガホン・サバイバルフーズ)

■中間支援組織（長野県みらい基金）としての課題

・現地支援チーム（関係機関）との連携強化、拡大
松川拠点の高校ボランティア部との連携、長野拠点の JA との連携、御代田拠点の道の駅との連携等地域の様々な多様なセクターとつながることで、存在意義の啓蒙と支え合いを生み出したい。

■2021 年度予定・目標

・4 年目の自立に向け必要な経費の見直しと収入を確認しながら次年度の目標を明確にする。
・県・市町等行政支援への打診、提案を引き続き行う。

・自立に向けた自主事業構築の姿を明確にし、3 年目の 2021 年度はそのトライアルを行い、プロジェクトの PDCA につなげながら、事業継続力をつけていく。
・行政との相談、連携しながら「第三の居場所」を地域で支える、地域支援マンスリーサポート推進を図る。
・国の助成金、補助金等の調査、研究
・各拠点で Facebook（第三の居場所事業）を作り、みらい基金ホームページから情報発信

以上